

令和5年第5回栗原市議会定例会 一般質問【個人質問】 通告表

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
1	12番 阿部 貞光	1 クマ・イノシシ 出没、市民の安全は守られているか	<p>1 クマに襲われてけが等をする被害が今年度は急増しており、国が統計を取り始めて以降過去最悪の被害となっていて、国や自治体などが対策の徹底を呼びかけているとの報道もなされている。</p> <p>市においてもクマの目撃情報や作物への被害等が多い状況にあり、市民生活の安全が確保されているか危惧される所であり、次の点について伺う。</p> <p>(1) ツキノワグマやイノシシの出没件数が年々増加し、農作物等に被害が及んでいるが、市民の安全を守る市長としての見解を伺う。</p> <p>(2) ツキノワグマの出没状況と捕獲頭数（地域毎）被害状況、被害額を伺う。（R3年～R5年）</p> <p>(3) 市が保有するクマ捕獲器の台数と種類を伺う（地域毎）。あわせて、取り扱いに精通している鳥獣被害対策実施隊員数はどうか（地域毎）。また、今年度の捕獲器設置状況を伺う。</p> <p>(4) クマ出没から捕獲器設置までのプロセスと市がどう対応をするか伺う。また、ツキノワグマの生息域の考え方について伺う。</p> <p>(5) 宮城県ツキノワグマ管理計画が示され、令和4年4月1日から令和9年3月31日までの5年間の期間とされている。本計画において、ツキノワグマの生息数はどのように示されているか。また、適正な管理頭数はどうか伺う。</p> <p>(6) 栗原市は農業被害が発生している市町村重点区域に指定されている。重点区域の市町村がツキノワグマ管理事業を実施するためには年度毎の実施計画書を作成することとされているが、どのような内容か伺う。</p> <p>(7) 県では、個体数管理として捕獲は狩猟及び有害鳥獣捕獲のみ行い、数の調整による捕獲は行わないとしている。また、その年度の上限数470頭に達することが予測される時または、達した時は生息数の個体数水準を維持するため猟友会に対し自粛要請を行う事を検討するとしているが、有害鳥獣捕獲はできると理解してよいか伺う。さらに県内ツキノワグマ捕獲頭数を伺う。（R3～R5）</p> <p>(8) 県ではツキノワグマの生息頭数を推定するため県内を5地区に区分し、50台規模のカメラトラップ調査を毎年度実施し、推定生息数を把握としている。栗原市への設置を要望し、生息数を把握し、対策を講じることはできないか。また、市内のツキノワグマの生息数を把握しているのであれば伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(9) 市内鳥獣保護区の個所数と区分、現状において見直し等の考えはないか伺う。</p> <p>(10) 栗原市鳥獣被害防止計画の捕獲等の取り組み内容、ツキノワグマでは人的被害の恐れ、及び農作物等の自主防除対策、被害状況を確認のうえ捕獲の必要性が生じた場合、箱わな、銃器による捕獲を実施するとしているが、捕獲の必要性が生じた場合とは、どのような時か伺う。 また、錯誤捕獲が発生した場合は放獣を検討するとしているが、実績と検討はどう行われているか伺う。</p> <p>(11) 防止計画の中に許可権限委譲事項の欄があるが想定される権限はどのようなものか伺う。 また、対象鳥獣による住民の生命、身体又は財産に係る被害が生じ、または生じる恐れがある場合の対処に関する事項に関係機関等の役割が記載されているが、どう機能しているか伺う。</p> <p>(12) イノシシの出没状況と捕獲頭数(地域毎)被害状況被害額を伺う。(R3～R5年)</p> <p>(13) 栗原市鳥獣被害防止計画では、イノシシの捕獲計画数を令和4年度から令和6年度までの間、年300頭と設定しているが、年々急激に増え続けている状況のもとでは少なすぎると考えるが、300頭の根拠を伺う。</p> <p>(14) 第四期宮城県イノシシ管理計画では、令和8年度末時点で平成25年度末生息数から半減となる16,500頭を目標と定めている。何頭捕獲すれば目標に達するかもはなはだ疑問であるが、そのため、有害鳥獣捕獲、個体数調整捕獲及び指定管理、鳥獣捕獲等事業を推進し、生息域の拡大防止や個体数の低減を図るとしている。 有害鳥獣捕獲・個体数調整捕獲の目的と捕獲方法の違い、市の取り組み捕獲許可権限について伺う。 また、県では、指定管理鳥獣捕獲等事業を令和5年10月2日から令和6年3月15日の間に実施する事とし、栗原市も対象地域に入っているが、実施区域と県の委託先と捕獲が実施されていると思うが、状況・課題はないか伺う。</p>
		2 除雪・融雪は万全か	<p>1 冬期の除雪・融雪作業は、安全で円滑な交通確保をはじめ、市民の安全・安心な暮らしを守るうえで重要な事業である。しかし、一方で除雪・融雪作業はマンホール等の構造物により危険を伴う作業でもある。作業従事者の安全確保策・支障木・危険木の撤去を含め、国道・県道・市道・農道・生活道路や歩道の除雪・融雪は万全か伺う。また、高齢者等への配慮した除雪対策はどうか伺う。 さらにスクールバス・幼稚園バス発着場となる学校・幼稚園への対応についても伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		3 子どもたちの確かな学力の育成	<p>1 宮城県教育委員会から、令和5年3月に「子供の学びを支援する5つの提言～自立した学習者の育成を目指して～」とする通知が出されている。</p> <p>この提言は平成25年10月に学力向上を図るための緊急会議において、各学校のすべての先生方に取り組んでもらうためまとめられている。</p> <p>今回は社会が大きく変わる中で子どもたちが未来の創り手となるための資質・能力を確実に身に付けるため、生涯にわたって能動的に学び続ける自立した学習者となることが必要とし、新たにまとめられたものとなっている学校改善、授業改善も含まれているが、栗原市としてどのように対応し成果はどうか伺う。</p> <p>また、算数・数学ステップ・アップ5に若柳中学校が取り組んでいるが、成果と課題は。あわせて市内の他、小・中学校が取り組まなかった理由も伺う。</p> <p>2 本市においても学力向上に向け、教育研究センター事業と学力向上対策プロジェクト事業等でおこなわれているが、それぞれの成果とこれからの取り組みで十分と考えているか伺う。</p> <p>また、栗原市立学校再編計画により、現在、小学校12校・中学校7校となっているが、小規模校と適正規模校の全国学力・学習状況調査の結果の比較はどうか伺う。</p>
2	19番 菅原麻紀	1 パートナーシップ制度導入について	<p>1 パートナーシップ制度とは、各自治体が同性同士のカップルを婚姻に相当する関係と認め、証明書を発行する制度である。仙台市が先駆けてこの制度を2024年度中に導入する方針を示した。</p> <p>全国でこの制度がないのは宮城県だけであり、政令指定都市としては仙台市が最後である。県が導入するのを待っていてはいつになるかわからないので、是非栗原市でも導入を求めたいと思う。</p> <p>また、学校でもジェンダー平等の観点から先生方の研修や授業、PTAの方々への共通理解の研修などしていると思うが、なお一層のご理解をお願いしたいと考える。そこで伺う。</p> <p>(1) パートナーシップ制度を導入する予定はあるのか。</p> <p>(2) 市の窓口対応についてパートナーシップ制度のような繊細な相談など共通認識として研修をするのか。</p> <p>(3) 学校でのジェンダー平等の授業やPTAに対する理解の場所はあるのか。現状と来年度の計画を教えて欲しい。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 町村史編纂、文化財保護について	<p>1 合併してもうすぐ 20 年になるが、旧町村の文化はそのままである。</p> <p>たくさんの文化財が個人であったり、任意団体が保有していることがある。大事な文化財を集めて展示することは考えているのか。</p> <p>また町村史は、旧町村時代の各地域の編纂がほとんど昭和 50 年代前後であり、古いのでは昭和 38 年と約 60 年前のものであった。市になってから 20 年、空白の 60 年歴史好きな方々に声をかけて作ってみるお気持ちはあるのか。</p>
3	14 番 佐藤 悟	1 教育政策	<p>1 不登校について</p> <p>(1) 栗原市の不登校の実態（小・中学校別）はどうか。</p> <p>(2) 要因は、何か。</p> <p>(3) 常設の「校内適応教室」の設置、スクールアシスタント、不登校支援員の配置は、どうか。</p> <p>(4) 校外教育支援事業として「栗原市けやき教室」（適応指導）（在学青少年指導員 2 人）、「栗原市子どもの心のケアハウス」は、NPO 教育団体等との連携事業は、どう行われているか。また、指導員等を増員し、活動領域を拡大・強化すべきであると思うが、どうか。</p> <p>2 中学校部活動について（令和 4 年度・5 年度）</p> <p>(1) 各学校の部活数。（運動部・文化部別）</p> <p>(2) 業務に従事した、教員の労働時間数。</p> <p>(3) 外部指導員の導入、部活動の地域移行は、どう検討されているか。</p>
		2 福祉政策	<p>1 児童手当について</p> <p>政府は 6 月、「こども未来戦略方針」を閣議決定した。児童手当は、(1) 支給対象を中学卒業までから高校生まで延長する。(2) 第 3 子は、0 歳から高校生年代まで延長する。2024 (R6) 年 10 月分から適用予定としている。社会全体で支える大胆な支援策が必要である。</p> <p>以下、問う。</p> <p>(1) 早期に市独自の児童手当の拡充を実施すべきであると思うが、どうか。</p> <p>2 成年後見人制度について</p> <p>(1) 法定後見制度と任意後見制度とは、それぞれどういうものか。</p> <p>(2) 市の相談窓口は、「地域包括支援センター」であるが、R3 年度、4 年度、5 年度（直近）の相談件数、選任された成年後見人の人数は、どうか。</p> <p>(3) 制度を熟知し、早めの準備がカギとなる、地域における学習会、勉強会のテーマ、取り組みに支援が大事になると思うが、どうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		3 文化政策	1 「民俗資料館」について (1) 旧富野小学校の校舎・教室等を大幅に改修し、市の「民俗資料館」とすべきであると思うが、どうか。 (2) 専門家によるプロジェクトチームを編成し、時代検証を経て、分類・整理し、解説を加えて展示公開し、学校教育、生涯学習、地域コミュニティ学習、観光スポットなどに生かすべきである、どうか。
		4 平和政策	1 核兵器禁止第2回締約国会議等について 以下、市長の見解と、県・国への上申を問う。 (1) 「核兵器禁止条約」の早期批准を行うべきである。 (2) アメリカ依存の核抑止からの離脱をすべきである。 (3) 防衛(軍事)費、(5年間で約43兆円)の削減を行うべきである。 (4) ウクライナなど戦争国・地域の人々への人道(人材・物的・財政的)支援の強化を行うべきである。
4	16番 佐藤千昭	1 国道、県道、市道の除雪による安全通行について	1 気象庁の予想によると、「今年12月から来年2月にかけての平均気温が平年より高く降雪量は少ない見込みの様ですが、一時的な寒気の流れ込みにより大雪になる可能性もある」ので注意してほしいと呼びかけている。雪の多い山間地域に住む住民にとっては不安な冬の到来である。早朝から除雪作業に取り組む関係者には、いつも感謝している。冬道はスリップ等の交通事故も多い。今年も安全で円滑な冬期交通に尽力願いたいと思う。 (1) 除雪を行う対象道路等のそれぞれの総延長を伺う。 (2) 除雪の基準となる基準点はどうなっているのか。 (3) 凍結防止剤の散布は気温と関係あるのか。 (4) 除雪ドーザー等の速度についての指導はどうなっている。 (5) 除雪オペレーターの確保について伺う。 (6) ロータリーでの除雪を望む声が強くなっている、対応は。
		2 年々出没区域が拡大する有害鳥獣対策を聞く	1 有害鳥獣の出没情報によると、ツキノワグマ、イノシシの生息、分布が年々拡大している。有害鳥獣は民家の近くに出没する事例もあり、県内では、人的被害も報道されており、市民の被害も心配される。 (1) これまでの有害鳥獣の出没情報や、捕獲実績を伺う。 (2) これまでの有害鳥獣(特にイノシシ)による農地、畦畔、水路、のり面、その他の被害状況も伺う。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		3 栗原市の林業振興に向けて(市有林も含めて)	<p>(3) 防護対策として、電気柵、ワイヤーメッシュ柵、ネット柵、檻、くくりワナ等がある。その設置状況を伺う。</p> <p>(4) 被害対策には、鳥獣被害対策実施隊によるなお一層の捕獲駆除が望まれている。人材の育成や待遇改善を望むが、伺う。</p> <p>(5) 新たな技術機械による効果的・効率的な捕獲もあると聞く。検討してみる必要があると思うがどうか。</p> <p>(6) 環境省では、過去にない人的被害や、農産物や生態系、生活環境に被害を与える「指定管理鳥獣」にクマを追加指定するかどうか検討している。市でも検討してはどうか。</p> <p>1 市内の森林面積の割合は、市面積の 55%で、民有林の占める割合や、蓄積量も多い。旧栗駒、一迫、花山の 3 地区に 7 割が存在している。戦後盛んに造林された人工林は利用期(伐採期)を迎え循環利用が課題と言われている。(森林整備計画)</p> <p>長期間の木材価格の低迷により山林収入も少なく、山林所有者の経営意欲の減退や、林業従事者の減少等、森林・林業を取り巻く状況は、引き続き厳しい状況にある。</p> <p>県では、「新みやぎ森林・林業将来ビジョン」を策定して、林業・木材産業の振興と森林の整備保全に関する施策の強化に取り組むこととしている。</p> <p>以下、栗原市の林業の取り組みを伺う。</p> <p>(1) 現在の市有林の収穫可能山林(8 令級以上の伐採期)の面積と推定蓄積量を伺う。</p> <p>(2) これまでの市有林の収入は、貸付地や間伐収入が主な収入となっているが、今後の皆伐等の伐採計画があれば伺う。</p> <p>(3) 市有林の森林整備計画に基づくとりくみ(除伐、間伐、枝打ち、林道開設、作業道開設等、その他)を伺う。</p> <p>(4) 森林環境譲与税の活用法について伺う。</p> <p>(5) 栗原市の林業振興について、今後の市長の見解を伺う。</p>
5	11 番 相馬勝義	1 熊の被害対策について	<p>1 本州における「ツキノワグマ」は種の保存のため、有害鳥獣でありながら、殺処分が限定されている。調べによると、宮城県において、カメラトラップ法による調査で平成 26 年で 1,669 頭、令和 2 年で 3,147 頭と約倍以上の頭数になっていると聞いている。恐らく令和 5 年は、さらに増えていると思われる。</p> <p>栗原市においても、毎日のような熊の出没が報じられ、市民は不安と恐怖を感じておられると思う。そこで、市長に尋ねる。</p> <p>(1) このような状況の中で市としては、どのような対応策を行っているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			(2) 捕獲方法なども含めて、国・県への働きかけも必要になってくると思われるが、考えをお聞きする。
		2 一級河川等の管理について	<p>1 近年頻繁に発生する集中豪雨や発達した雨雲が連なる線状降水帯による豪雨災害が全国で時期を問わず発生している。</p> <p>このような近年の状況下において、熊谷川上間海橋下流部では堤防法面下部の洗堀が進み、いつ破堤が起こるか分からない状況となっている。上間海には水門があり水稲作付け期には用水に使用する為、水門を閉じているが、大雨の際にはその水門が開けられ、その下流側が流水により洗堀されていると思われる。</p> <p>熊谷川の上流は断面は狭いが、3面のコンクリート水路が設置されている。しかし、下流側は部分的には法面をおさえるため木柵が設置されているが、その木柵が腐食している状況であり、全体的に下流側には民家もあることから河川護岸の整備が必要と考える。</p> <p>河川管理者である宮城県においては、これまでも堆積土砂撤去、支障木伐採等実施いただいているが、今日の異常気象を鑑み落堀川の土砂撤去、熊谷川上流の支障木撤去と防災のための更なる河川整備を県に強く働きかけていただきたいと思うが、市長の考えを伺う。</p>
		3 「教育とは」について	<p>1 教育とは何かを議論することは大変難しい問題であるが、人それぞれ立場の違いによって異なる教育目的を掲げるものである。</p> <p>栗原市における教育への取り組みについて市長にお伺いする。</p> <p>(1) 教育は、知・徳・体の調和ある人格の完成を目指す教育の根幹を担うものであり、日本の伝統・文化を尊重し、国際社会に生きる日本人としてアイデンティティを醸成する教育である。</p> <p>人間としての心情や道徳的な意識を養うためには、保育所まかせ・学校まかせにせず、家庭での徳育教育が最も重要であると考え。徳育を効果的に推進するためには、親子での良質な読書が極めて有効であり、読書は年齢に合わせて、選定する必要がある。例えば、幼児であれば、優れた絵本、就学するようになれば、日本の自然・歴史・文化などに関連する優れた小説や歴史書などが最適である。</p> <p>栗原市での優れた家庭教育を推進するために、子どもの年齢に応じた優れた書籍の家庭配布などによって、親子のコミュニケーション及び徳育を支援する方策をご検討いただきたいと思う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(2) 少子高齢化が急速に進んで、日本の市場縮小し、これからは日本だけではなく、世界を相手ビジネスを進めることが不可欠となりつつある。現在は海外の方々ともオンラインで容易にコミュニケーションが取れるようになり、世界を視野に入れてビジネスを展開していくことが重要である。今後の日本では、世界を舞台に活躍できるグローバル人材の育成が求められる。</p> <p>グローバル人材に必要な力としては「語学力・コミュニケーション力」、「主体性・積極性・チャレンジ精神」「協調性・柔軟性」「責任感・使命感」「異文化に対する理解力と日本人としてのアイデンティティ」が挙げられている。</p> <p>グローバル人材の短期間での育成は容易なことではない。将来を踏まえ、早くから教育に取り入れる必要がある。</p> <p>市として、グローバル人材の育成に目標をおいた教育の展開をどのようにお考えか伺う。</p>
6	6番 三塚 東	1 避難所の細倉公民館の修繕と活用	<p>1 鶯沢地区に所在する細倉公民館の入口付近に、「9月14日未明、軒天の一部が崩落しました。施設出入りの際など、この周辺に立ち止まるなどしないよう注意願います。なお、危険防止のため柵内に立ち入らないよう注意願います。栗駒・鶯沢教育センター長」と掲示され、玄関入口周辺はパイプで補強された安全対策が施されている。</p> <p>そこで3点を聞く。</p> <p>(1) 9月14日未明に崩落した軒天の一部の修繕はいつ実施するのか。</p> <p>(2) 軒天の一部崩落による調査の結果、調理室が使用できない状況になっており、自治会や老人クラブなどの行事に支障をきたしている。</p> <p>また、細倉公民館は、市が指定する避難場所にもなっており、避難所として調理室が使えるよう、改修工事を急ぐべきではないか。</p> <p>さらに、2階の一部の部屋には、千葉三二郎さんから寄贈されたと思われる物品が見られる。市内1箇所にとどめて、仮称「千葉三二郎記念館」などとして保管することを考え、避難場所としての機能を明確にすべきではないか。</p>



発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 市は、1 地区 1 公民館の方針のもと、公民館の再編・整備計画をしている。</p> <p>鶯沢地区には、鶯沢、北郷、細倉と 3 つの公民館がそれぞれの地域に所在している。特に、細倉公民館はどのように構想されているのか。</p> <p>また、運営方法は、地域性を考慮すべきではないか。</p>
7	20 番 三 浦 善 浩	1 行政事業にメタバース活用を	<p>1 メタバース（仮想空間）を活用して市の事業に取り組んでどうか、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 栗原市の魅力を発信したり、観光PRをしてはどうか。</p> <p>(2) ひきこもり対策として、家に居ながら参加できる「メタバース居場所」をつくってはどうか。</p> <p>(3) 詐欺被害の防止のため、対応方法が体験できるようにしてはどうか。</p> <p>(4) 将来的には、「メタバース市役所（総合支所）」を設け、窓口での相談や申請手続きができるようにしてはどうか。</p>
		2 市職員にフレックスタイム制の導入を	<p>1 市職員の働き方について、次の点を伺う</p> <p>(1) 市職員が始業や終業の時刻を選べるフレックスタイム制を導入してはどうか。</p>
		3 国、県との情報交換・共有を	<p>1 国土の保全や維持管理は、重要な業務であると認識している。国・県道や一級河川の工事は、日常的に身近なところで行われている。</p> <p>(1) 国・県道や一級河川の工事について、市に内容の説明や情報提供はあるのか。 (新規、改良、維持管理など)</p> <p>(2) 国・県道や一級河川の工事について、地元の行政区長や住民に説明はあるのか。 (新規、改良、維持管理など)</p>
		4 「一般質問」を振り返る	<p>1 これまでに、一般質問でいくつかの提案をさせていただいた。次の内容について、その後の検討結果についてあらためて伺いたい。</p> <p>(1) 本年 2 月定例会で質問した、通年ノーネクタイの導入について。</p> <p>(2) 本年 6 月定例会で質問した、帯状疱疹予防ワクチンへの助成について。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
8	13 番 高 橋 将	<p>1 ゴミ削減と循環型社会推進の取り組みについて</p> <p>2 放課後児童クラブのアレルギー対応を求める</p>	<p>1 今回、提案する家庭用生ゴミ処理機の購入補助は、本市のゴミ量の削減や、3R、5R といった市の循環型社会形成の取り組みをさらに推進するものになると考えている。</p> <p>一般的に家庭用可燃ゴミの生ゴミは 40%～50%といわれ、本市の令和 5 年度に照らし合わせると、約 5,000t の生ゴミが発生していると考えられる。生ゴミは多くの部分が水分の重量で、家庭用生ゴミ処理機などで乾燥させると 1/7 ほどとなり、効果の最大値を見込んだ場合、5,000t であれば 4,300t を減量し約 715t へと大きく減量することができる。</p> <p>生ゴミを減量化する効果としては、重量だけでなく処理物は有機肥料として利用でき、ごみが「資源」に変わることで、ごみ収集所から生ごみが減少し夏の悪臭軽減や動物が寄り付きにくくなり衛生的になること。さらに、廃棄物処理のコスト削減、施設・設備の延命、収集運搬時の負荷削減など多くの効果が期待できる。宮城県内でも 35 市町村中で半数を超える 19 市町村が既に購入補助に取り組んでいる状況にあり、本市においても同様に支援を行うべきである。</p> <p>合わせて、市のクリーンセンターの課題として、施設修繕の際に一時的に処理能力が落ちることで、収集されたゴミが処理しきれず通常の保管場所から溢れて施設内に置かれている状況が発生しており、市民から保管体制や衛生面を不安視する声も寄せられている。施設の定期的なメンテナンスは避けて通れないものであり、保管場所も簡単に広げられるものではない中で収集されるゴミの削減も一つの解決策として考えられ、生ゴミが減量化されると長期保管時の衛生面での影響も緩和されるものと考えている。細目 4 点質問する。</p> <p>(1) 人口の減少に比べて、ゴミの量が横ばいの状況をどう評価されているか。</p> <p>(2) ゴミの削減に向けどのような施策をしているか。</p> <p>(3) クリーンセンターのゴミ処理能力を超過する場合のゴミ保管の課題について改善策はあるか。</p> <p>(4) 家庭用生ゴミ処理機の購入補助を導入してはどうか。</p> <p>1 栗原市の子どもたちへのアレルギー対応について、例として多くの児童が通う学校給食ではアレルゲンとなる食材の除去、代替となる食材の用意、さらには調理器具、包丁、まないた等の交換、配膳に使う食器やトレイも違うものを用意するなどの対応が実施されており、食物アレルギーを有する児童生徒にも給食を提供し、安全性を最優先する取り組みとなっている。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>一方で、多くの児童が通う放課後児童クラブでの状況を保護者から聞くと、おやつにアレルギーがあった際には、対象児童が持ち帰る対応となっており、そのおやつ代は放課後児童クラブの利用料とは別料金として徴収され、同じ金額を払っているが食べられないものを持ち帰ってくることに違和感を感じるとの内容であった。先の学校給食と比べると、アレルゲンの考えや安全性への対応が不足していると考える。本市でも可能なアレルギー対応を期待し、放課後児童クラブのアレルギー対応について聞く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 利用者のアレルギー情報はどのように把握されているか。</li> <li>(2) おやつを選定方法はどのような考えで行われるのか。</li> <li>(3) 放課後児童クラブにおける、おやつ金額や徴収方法はどうか。</li> <li>(4) 本市の放課後児童クラブのアレルギー対応の状況はどうか。</li> <li>(5) 他市の放課後児童クラブのアレルギー対応の状況はどうか。</li> <li>(6) 今後のアレルギー対応について考えはあるか。</li> </ol>
9	8番 小野久一	1 栗原市の農家・農村・農地を守り発展させる方策を問う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市内の水田・畑地面積はいか程か、水田のうち1ヘクタール以上、30ヘクタール～1ヘクタール未満、30ヘクタール未満の区画はそれぞれいか程か。</li> <li>2 宮城県では平成24年3月に10年後を見通した担い手が利用する農用地の面積の割合の目標等を示すものとして「農地中間管理事業の推進に関する法律」第3条の規定により基本方針を策定した。それによると担い手が利用する農用地の面積の割合は令和5年度には90ヘクタールを目標とするとされているが栗原市ではどうか。</li> <li>3 農地中間管理事業は機能が十分に発揮されているか。水田の状況によって「出して受けて」の条件が合致しない場合どう対応されているか。</li> <li>4 国も県も市も農協も大規模農家の育成に力を入れているようだが集落に1～2戸の大規模農家で農村の景観やコミュニティが守れるか。家族経営における適正規模は示せないか。大規模農家において「適期刈り取り」や「刈遅れにならない」稲作が行われていると思うか。</li> <li>5 小区画・未整理地・湿田・ポンプアップ等、条件不利地では、受け手がいないのではないか。そのような所は小規模で、農機具を買えば赤字になるのは分かっているながら農地を荒らさないように、環境を守ろうということ頑張っているのが実態だと思うが市長はどう捉えているか。 このような農家の暮らしや農地・自然環境を守っていくのは行政の責務ではないか。</li> </ol>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>市の施策に「栗原市農業揚水機場維持管理補助金」があるが、本年の対象団体への案内の中に「令和4年度で廃止の予定だったが、7年度まで継続することにした。これまでの補助率は電気料金2万円以上5万円未満は21%の補助、5万円以上10万円未満は28%、10万円以上は35%の補助だったが6年度以降の補助率は15%から25%の予定です。」とあった。4年度の補助団体数、補助金総額はいくらか。なぜ、令和7年度までと期限を決めるのか。なぜ、補助率を引き下げるのか。市内の農地を守り自然環境を守っている人たちを支援するのが行政のすべきことでないか。期限を設定せず、補助率を50%に引き上げるべきと考えるが市長の見解を伺う。</p> <p>また、兼業農家や小規模農家など3戸以上の農家が共同で機械を購入する際の助成として「栗原市地域農業を担う営農支援事業」があるが、4年度の利用は何件でどのような内容か。支援対象を2戸以上に改め助成金額を対象経費の10分の5以内(限度額50万円)とし利用しやすい制度にすべきでないか。</p> <p>6 市長は荒廃していく農地や山林を見てどのような見解を持つか。国や県、市の役割があると思うが、これまで通りのやり方で良いと思っているか。</p>
		2 「栗駒キャンプ場」計画の進捗状況は	<p>1 9月議会以降どのような準備をされてきたか。また、キャンプ場建設に向けてどの段階なのか。</p> <p>2 産業建設常任委員会で10月に静岡県伊豆市のキャンプ場を視察研修してきたが、全国で20か所のキャンプ場を運営している民間事業者の言葉で印象に残ったのは、「決まった用地をあてがわれ『ここでやってくれ』では自分たちのノウハウを生かせないので最初から参加させてもらった方がいい。」</p> <p>「これからはオートキャンプが主流になりますよ。」ということであり、オートキャンプ用の平地を準備しテープで仮区画されていた。</p> <p>市では一緒になって取り組む民間事業者を見つけられたか。</p> <p>場所は先に示された山脈ハウス東側で変更はないか。「旧駒の湯キャンプ場」が平らでオートキャンプ場に向いていると思うが検討されなかったか。</p>
		3 上水道「漏水」の使用水量認定はどうか改善されたか	1 2月議会において同僚議員が地下漏水の場合「善良な管理人の管理をもって管理」していても気づかず、2カ月に1回のメーター検針で初めて気づくのではないかと指摘し、具体的な対応を求めたが、どう対応されたか。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>2 この質問以降に減免の対象となった漏水は何件で、また認定をしなかった事案は何件あったか。</p> <p>3 使用水量の認定を行わない項の「キ」に「水道水に熱を加える装置での漏水の場合」とあるが、給湯器やエコキュート、ボイラーや電気温水器などで「目に見えない漏水」の責任を家庭に求めるのは間違いでないか。</p> <p>4 漏水においての使用水量の認定について、様々な基準があり担当課において認定の可否を決めるのは難儀なことだと思うし、その後当事者の納得を得なければならないのは大変なことでないか。</p> <p>使用水量の認定・不認定の判断は「使用者の故意による漏水（目視できるのに放っておいた等）は使用水量の認定は行わない。」の1点で良いのでないか。</p>
		4 栗駒地区からの金融機関撤退の影響は	<p>1 栗駒地区から仙北信用組合が本年11月20日に築館支店に移転し、指定金融機関である七十七銀行は令和6年4月22日に築館支店に移転するというが、市ではいつこの事前通知を受けたか。このことにより金融難民（弱者）は発生しないか。市民（特に栗駒地区民になるが）への影響をどう捉えているか。</p> <p>2 七十七銀行は一迫支店が閉鎖、次に岩ヶ崎支店の閉鎖、この経過をたどるとすれば、次は若柳支店となるが何らかの通知のようなものはないのか。</p> <p>3 栗駒・鶯沢商工会から要望書が提出されたと聞かどどのような内容か。</p> <p>4 ATMは現在地に残すのか。スーパー店内に設置されているところもあるが、今、岩ヶ崎の六日町通りや馬場通り、山の駅周辺のにぎわいは相当なものがある。そこを考慮しての設置が最適と思うが市長の考えを伺う。</p>
10	22番 菅原勇喜	1 政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求めよ	1 栗原市議会は平成22年6月29日に「核兵器廃絶平和都市宣言」を採択、それを受け、栗原市は、平成25年6月に、「日本非核宣言自治体協議会」へ加入。以来、栗原市は毎年8月、本庁舎ロビーにおいて原爆展を開催、市長は「核兵器は、子どもも、女性も、高齢者などの非戦闘員も、区別なく殺りくする非人道的な兵器です。皆さんには、この原爆展を通して、核戦争の悲惨さをご理解いただくとともに、世界中から核兵器が廃絶され世界恒久平和が実現するよう祈念いたします」と市民に訴えている。

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>栗原市の取り組みは平和を願う世界中の人々、核兵器禁止条約締約国会議に参加するすべての方々と連帯する取り組みだと考える。</p> <p>第3回締約国会議は2025年3月3日～7日、ニューヨークの国連本部でカザフスタンを議長国として開くこと決めたとのことである。採択した政治宣言は、未参加の国々に「遅滞なく署名、批准する」よう呼びかけている。</p> <p>栗原市議会は令和3年9月議会において、「核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書」を可決し、内閣総理大臣、外務大臣、衆参両院議長に送付している。市長にあっても、政府に対し「核兵器禁止条約への署名、批准」を求めているのか。</p>
		2 旧町村史発刊について	<p>1 増補版発刊の進捗状況は</p> <p>私は佐藤勇市長、佐藤智副市長の平成28年2月議会代表質問で「旧町史の編纂を」ということで旧若柳町史が昭和49年3月発刊以来、栗原市誕生までの30年余、空白のまま栗原市へ合併、合流となったこと、平成28年度予算案に現庁舎の解体予算も含まれていることから資料の散逸も心配されるところであり、これを機に旧若柳町史の編纂を求めた。</p> <p>当時の亀井芳光教育長は「市史編纂事業と併せて取り組んでいく」「町史の編纂は短くても4、5年かかると思う」「必ず町史編纂委員会を立ち上げなければならない」「栗駒町では昭和38年以来、手を付けていない」「文化財保護審議会等もあるので、その辺とも意見を聴取しながら計画を立てていきたいと考えている」との答弁であった。</p> <p>千葉健司市長に変わった平成30年2月議会一般質問で「栗原市史、旧町史編纂の具体的な取り組み」を求めたところ、当時の佐藤新一教育長は「市史編纂事業は必要な事業と考えている。栗原市文化財保護審議会などの意見を伺いながら、旧町村史編纂の時期、計画などについて検討していく」との答弁。</p> <p>令和2年2月議会では、代表質問で「令和2年度は15周年記念式典など計画されているが、栗原市史、旧町史の編纂に取り組むべきではないか」と質したところ、市史の編纂方針、調査方法、編纂スケジュールなど、令和2年度から具体的に検討して行く。旧町村史については、市に引き継がれた旧町村史の検証を行っており、市史編纂事業と併せ検討していく」との答弁。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>佐藤智市長に変わった令和 4 年 12 月議会一般質問では、「栗原市史、旧町村史編纂の具体的な取り組み」を求めて「人員配置、編纂体制、資料の収集状況及び保管場所等どのようになっているか、現在の取り組み状況について」質した。佐藤新一教育長は「栗原市史の編纂と令和 7 年度 20 周年記念誌編纂をめざし、職員を 1 人配置し、執筆作業を行っている。増補版については広報紙などの資料収集を引き続き行うとともに、内容確認をすすめながら刊行の時期や計画について検討していく。資料については確実に収集してあり、金成庁舎の書類倉庫に保管してある」とのことであった。</p> <p>令和 5 年 2 月議会では改めて一般質問で「直ちに旧町村単位に編纂委員会を組織し具体化されるよう」求めたところ、佐藤智市長は「旧町史増補版の編纂は、資料収集を継続し合併 20 周年記念誌の目途が付き次第、編纂作業を加速していきたい」との答弁であった。</p> <p>そこで聞くが、初めて質問した平成 28 年 2 月議会から 7 年 10 か月経過している。市長も選挙ごとに交代し佐藤智市長は 3 人目である。この 8 年近い間、どのような取り組みを行ってきたのか、質問した時系列ごとに具体的な取り組み状況、現時点での到達状況、人的体制、資料の収集状況、そして発刊の時期について明らかにされたい。</p>
		<p>3 帯状疱疹ワクチン接種費用への費用助成について</p>	<p>1 本市における令和 4 年度の帯状疱疹発症者数はいかほどか。また、ワクチン接種状況について尋ねるが、市立病院において、令和 5 年度は 11 月 30 日現在で何人接種されているか。</p> <p>2 令和 6 年 4 月から、市単独によるワクチン接種費用助成を行うことを明らかにされたが、助成内容はどのように検討されているか。</p> <p>3 病院などで配布されているワクチン接種の啓発パンフによれば、「50 歳以上で帯状疱疹を発症した人のうち約 2 割は 3 か月以上痛みが続く」とあり「50 歳を過ぎたら帯状疱疹の予防接種ができます」と呼び掛けている。</p> <p>全国保険医団体連合会が今年の 8 月 24 日現在で作成した資料によれば、宮城県は川崎町 1 自治体のみ助成実施であるが、全国では 273 市区町村で実施されており、うち 253 自治体が 50 歳以上を対象としている。本市においても 50 歳以上を対象とすべきと考えるがいかがか。</p> <p>また、接種助成額については 2 回接種の不活化ワクチンの場合 1 万円×2 回、1 回接種の生ワクチン接種の場合は 5,000 円にしてはと提案するがいかが考えているか。</p> <p>4 予算措置と財源はどのように考えているか。</p> <p>5 国、県の対応はどうか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		4 くりこま高原駅 駅前駐車場の管 理について	<p>1 令和4年度までの過去3か年の収支状況はどうか。また、平成30年度から令和4年度までの5年間の収支差額総額はいくらになるのか。</p> <p>2 令和4年度から8年度までの管理は「三井不動産リアルティ(株)」が入札により落札し、1年あたり11,866,800円で管理することになっている。管制機器の更新、新500円硬貨、新紙幣、クレジット決済、電子マネー等に対応する精算機の更新が求められていたが「くりこま高原駅前広場総合管理業務」入札に当たっては以上のことが含まれていたと理解するがどうか。</p> <p>3 支出総額には「三井不動産」への契約額のほかどのような項目があるのか。</p>
		5 汚泥肥料、有機 センター肥料の 活用はどうか	<p>1 衛生センター汚泥肥料の農地還元拡大への新たな方策は考えているか。</p> <p>2 有機センター運営について 主要施策の成果によると令和4年度は3有機センター合計で1,621tの販売残量が発生しているがどのような対応を行っているのか。 せっきくの有機肥料である。農地への積極的利用を推し進めるべきと考えるがどのような努力をされているのか。 令和4年度の有機センター管理運営事業の収支はいくらだったのか。また、施設ごとの収支はどうか。</p> <p>3 利用組合員は、築館地区25戸、金成地区27戸、栗駒地区38戸とのことだが令和4年度実利用組合員はそれぞれ何人か。</p>
11	9番 菊地広志	1 官製談合防止対 策の今後	<p>1 栗原市では2018年に残念な事に官製談合事件があり、職員が逮捕される事件があった。また、今年2月には金成庁舎を舞台にした贈収賄事件もあった。過去の官製談合事件では事件後、二度とこのような事が起きないように、市役所内部では様々なシステム変更があったのではないかと思うが、今年再度、金成でまた残念な事件が起こってしまった。このような事件が起こると、起こした当事者は人生を棒に振る事になってしまう。まことに不名誉な話だが、「官製談合の栗原市」と揶揄されている事も耳にする。そこで官製談合防止対策について何点かお聞きする。</p> <p>(1) これまでの事件後の、官製談合防止への内部統制はどの様になっているのか。</p> <p>(2) 様々な官製談合防止の方策を対策していると思うが、具体例を挙げて教えて欲しい。</p> <p>(3) 官製談合については、基本的にはどのように職員への教育が行われているのか。</p>



発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
		2 ハラスメントの現状について	<p>1 市役所や支所、病院や保育所、学校など、市の施設内や関連施設での職員のハラスメントについての問題は無いのか。市職員の中途退職や長期に渡る欠勤、病休の話を目にし、精神的に参って離職している職員も居るとも聞く。</p> <p>離職や休職、その原因が全てハラスメントだとは思わないが、今は色々なハラスメントがある。セクハラやパワハラ、モラハラなどはよく聞くし、身近に問題意識として感じているが、それ以外にも様々なハラスメントがあるようだ。何気なく行っている普段の言動や行為も、受け取る側が負担で嫌だと感じればハラスメントになってしまう。そこで何点かお聞きする。</p> <p>(1) 市役所内でのハラスメントの事実はあるのか。</p> <p>(2) ハラスメント被害を見たり聞いたりした場合の対応策はどの様になっているのか。</p> <p>(3) 被害職員の相談窓口や、個人情報の秘密保持での相談体制は整っているのか。</p>
		3 現在の栗原市の「観光と物産」	<p>1 令和3年12月の第7回定例会において、私の一般質問で「これからの栗原市の観光と物産について」をお聞きした。その際、市長は観光地として活性化させていくための今後の取組について、栗原市では現在、くりはら田園観光都市の理念を継承した「栗原市観光振興ビジョン」の策定に取り組んでおり、今後は、課題の解決に向けて、(仮称)栗原市観光戦略会議を設置し、観光関係者などが情報や課題を共有しながら、アドベンチャーリズムや農泊といった栗原市の優位性が高められる事業や、長期滞在型観光のポイントともなる他市町村との広域的事業連携に積極的に取り組むことで、観光と物産の振興に努めてまいりますと答弁している。また、栗登一平4市町連携において、周遊ルートの設定による誘客促進事業の準備を行っているところであり、アフターコロナを見据え、多方面での連携も模索しながら、広域的な観光連携に取り組んでまいりますと答弁している。あれから、すでに2年が経過しているが、残念ながら私には何も動きが見えていないので、再度何点かお聞きする。</p> <p>(1) (仮称)栗原市観光戦略会議は設置されたのか。</p> <p>(2) 他市町村との広域的事業連携には取り組んでいるのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 市としても、観光物産協会が中心となって、人材育成とかそういった面で、色々と考えなければならぬ。当時、今は検討中との話だったが、その後はどの様に動いているのか。</p> <p>(4) 「観光振興ビジョン」の中で、観光を主体的に行える団体、そちらも見据えながら進めていきたいと考えていてDMOとかDMCとか、どんどん段階で変化している。その時代、時代に合わせた主体を作り上げていきたいということで「栗原市観光振興ビジョン」に掲げているところだとあるが、そのような概要になっているのか。観光物産協会だけに任せるだけではなく、観光関係者を巻き込んだり、共有したりして観光と物産の振興や活性化はできているのか。</p>
1 2	10番 高橋勝男	<p>1 山からの木材切り出しへの市の対応は</p> <p>2 スマート窓口システム運用開始について</p>	<p>1 木材価格の上昇に伴って、森林の立木伐採が多くなってきているように思われるが、過去2年間及び今年度の立木伐採届出件数及び面積の推移はどうなっているのか。</p> <p>2 そのような中であって、木の搬出ルートや運搬に伴う路肩の損傷などの問い合わせがある。木の切りだしの場合の搬出ルートはどのように決められるのか。</p> <p>3 栗駒地区の木の切りだし運搬等が起因する市道薬水線及び林道の補修について、市と事業者との協議が進められてきたと聞くが、どのような協議が行われて来たのか伺う。</p> <p>4 道路の種類によって、舗装構造も違っている。また、橋りょう等もある。鉄板を敷いている箇所もあるが、その場合は、搬出作業開始以前に敷設するのではなく、地域からの苦情や道路が傷んだ後に行われているようである。 切りだし運搬作業者の安全確保と、市の財産を守るという観点からも事前協議・助言が必要と考えるがどうか。</p> <p>1 行かない・待たない・書かないを合言葉に、スマート窓口構築事業が、令和5年6月の補正予算で可決され、令和6年1月下旬運用開始が進められているが、進捗状況と、具体的にどの手続きがどのように変わるのか。また、この事業の運用開始による、市民、職員のメリットをどのようにとらえているのか。</p> <p>2 今回の事業の中で、スマート窓口システム構築より実現できることの中にオンラインによる申請手続きも含まれているが、セキュリティの関係で心配する声もある。どう考えているのか。また、今回事業の中で実施するのか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			3 総合支所の窓口で、死亡届や出生届など戸籍に関係する手続きが重なると、昼食の時間が取れない状況になる場合がある。戸籍等に関する手続きはどのようなのか。
		3 栗駒山登山コースの整備を県に要請を	<p>1 今年の栗駒山、紅葉時期のバス利用の登山者数は、延べで約 22,000 人と聞いている。栗駒山の登山コースは、中央コースを始め、登山経験や体力など人それぞれが自分に合った登山コースを選択して栗駒山の魅力を満喫されている。コース毎の登山者数は把握されているのか。</p> <p>2 登山初心者や子供達でも登りやすいコースは、中央コースであるが、雨等によって、階段付近の土砂が流されている箇所があり、整備を求める声が寄せられている。また、東栗駒コースでも、いわかがみから新湯沢間にぬかるみがあり滑って大変だという声もあるが、コース毎の修繕要望箇所を市ではどのように把握しているのか。また、宮城県に対する整備要望はどうなっているのか。</p>
		4 汚染牧草の減容化施設建設場所選定状況と保管農家協力金について	<p>1 令和 5 年度中に建設場所を選定するとされている、放射能汚染牧草の減容化施設の選定状況はどのようなのか。</p> <p>2 先の 9 月議会の一般質問で、市長の見解を求めている、美里町が進めている牧草等の汚染廃棄物保管農家への協力金について、11 月 12 日の新聞報道では、東京電力と協議し、保管開始までさかのぼって保管期間を計算して協力金という形で支払うことで合意したとなっているが、栗原市も同じ対応をすべきではないか。</p>
13	4番 佐々木 嘉 郎	1 水害対策について	<p>1 毎年日本のどこかの集落が水没し、先祖伝来の家屋財産を失うことがくり返されている。降雨や台風の被害に対して「想定外だった」「自分の命は自分で守れ」「早く逃げろ」で、これに従って避難してきた人は多い。</p> <p>技術大国と言われる我が国で、国家プロジェクトではない町工場の打術が人工衛星を打ち上げる時代、栗原の人々の生活を今もなおくり返される水害から何とかして守りたい、そんな思いでいっぱいだ。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>降雨は地球誕生以来くり返されている地球自体の営みである。その他にも地震もあり津波もあり、山の噴火などもある。地球はこうしたエネルギーの放出を続けながらバランスをとり、素晴らしい自然環境を保ち続け、地球上の全ての動植物を育てている。地球の営みに対して想定外と言ってもどうにもならないし、無責任ではないだろうか。何十億年も同じことをくり返しているに過ぎない。</p> <p>人間が想定外だと言って地球や自然のせいにしてはじまらない。私達人間がくり返し発生する災害の本質をつかみ、それを「迎える技術」や「立ち向かう技術」や「かわす技術」を確立し、人命と国土を守り安全安心を手にするには可能ではないか。科学は日進月歩ならず、秒進分歩で進化発展している。その時代時代の人間の能力を駆使し、最善をつくすことは人類の知恵であり、務めであり、責任であると言えるはずだ。</p> <p>今、これまでに施してきた災害対策などが、自然界から試されていると言えるのではないか。たとえば流域から水害をなくすために造られた遊水地機能や堤防の強度は十分か、などがそれではないか。</p> <p>相当な豪雨があっても浸水がなかった、堤防の決壊がなかった、田畑の冠水がなかった、人や家屋等が無事だった場合、災害があったとは言わない。だから遊水地や堤防などが本来の目的を果たせるように今一度、水害がなぜ起こったのかを精査し、少しでも被害を無くしていきたい。基本的な考え方を述べた上で、以下質問する。</p> <p>(1) 栗原南部を流れる萱刈川流域の泉谷・野沢地区は少しの雨で洪水に悩まされている。住民の話では萱刈川の堤防により東北本線の鉄橋の橋桁が低いとの指摘があった。目視ではそのように見られるが、ここの堤防の計画高水位、基本高水位は標高いくらになっているのか。また橋桁高はいくらか。</p> <p>(2) 小山田川では、瀬峰上富地区で左岸堤防には無堤防の霞堤があり、ここからおよそ 70 ミリの降雨で逆流が始まる。基盤整備された水田はもとより、県道 1 号や市道樋渡線も通行止めとなる。無堤防部を築堤し、水門、排水機場を設置し、水害をなくしてほしい。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 五輪堂山公園西側の、瀬峰川にかかる東北本線鉄橋は、堤防や農道九反線より低い構造物となっている。このままでは、瀬峰駅東の水田が冠水し、家屋の浸水も確実だ。早く対策をとるべきだが、どうなっているか。</p> <p>(4) 降雨のたびに瀬峰の河川を見て回り、照越川、荒川、大江堀川、夏川、熊川など調査している。幸い堤防の決壊はないが、越流直前状態になるのが常だ。越流しても壊れない堤防にすべきと思うが、どうだ。</p> <p>(5) 河川の水はすみやかに海へ流すべきだが、対策をしっかりとってほしいが、実態をどうみているか。</p>
1 4	23 番 濁 沼 一 孝	1 第3次栗原市行政改革大綱（後期）策定について	<p>1 第3次栗原市行政改革大綱は、10年間を計画期間としているが、方針を5年毎に見直すとともに、社会情勢の変化や先進技術等の導入検討を迅速に行うため、策定するものとある。次の行革大綱について市長の見解を問う。</p> <p>(1) 管理No.18 で栗駒山麓ジオパークビジターセンターへ指定管理導入をし、更なる専門性を充実した施設運営をしながら来館者増を図るとあるが、手段として、協議会職員の育成、指導、指定管理者制度導入手続きの実施、入館等の収入を得るための展示コンテンツの追加とあるが、今後どういう展示を考えているのか。</p> <p>意図として、指定管理者制度導入により、入館料や施設を活用してイベント等を実施したい団体等の料金収入や体験収入を得ることで、経費の節減を図るとあるが、どれだけの削減を図られるのか。</p> <p>(2) 管理No.34 みちのく風土館の在り方の検討について、施設の管理運営の見直しを進める、みちのく風土館は商店街の活性化を図るために設置されているが、管理運営を担う団体がいないため、新たな活用も含めた施設のあり方を検討していくとあるが、今後、利活用できる見通しがあるのか。</p> <p>年間の維持管理経費として1,310,833円であるが利活用がない場合は閉鎖も考えるべきと思うが考えを伺う。</p> <p>(3) 管理No.36 市遊休の土地、施設の売却等の促進で市が所有し、使用目的が終了し、活用予定のない土地及び施設について売却を進めるとあるが、対象施設が188施設であるが見解を伺う。</p> <p>(イ) 土地、施設それぞれの件数は。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(ロ) 令和 2～5 年までのそれぞれの売却件数はいくらか。</p> <p>(ハ) 土地、施設は入札によって販売するのか。</p> <p>(二) 売却価格は固定資産税評価額を参考にするのか。</p>
		2 工業団地の整備について	<p>1 9 月定例会の一般質問において、工業団地の整備について市長の見解を頂いたが、オーダーメイド方式で対応する旨の答弁と私は理解しているところである。令和 5 年 12 月 1 日の河北新報の記事で大崎市の伊藤康志市長は、隣接する大衡村への半導体工場立地で東北一円が回り知れない効果が期待できると話している。</p> <p>栗原市でも、工業団地整備、住宅団地整備に取り組むべきと思うが、見解を伺う。</p>
		3 栗駒山へのキャンプ場整備について	<p>① キャンプ場の規模は。</p> <p>② 予算は。</p> <p>③ 事業主体は。</p> <p>④ 公設民営か。</p> <p>⑤ 費用対効果は。</p> <p>⑥ 黒字にならない場合は。</p> <p>⑦ 栗駒キャンプ場建設は、耕英地区民とその他の有志が要望したと仄聞するが、そんなに簡単に一大プロジェクトができるものなのか見解を伺う。</p>
		4 栗駒三迫川河川公園内のパークゴルフ場について	<p>1 現在、栗駒三迫川河川公園内のパークゴルフ場に堤防から降りる手すりがなく、高齢者等が登り降りが大変である。手すりの設置を望むが市長の見解を伺う。</p>
1 5	18 番 五十嵐 勇	1 事業計画策定にあたっての市の姿勢について	<p>1 市道山子線は合併後全線改良工事として取り上げられ、又市道田代線との交差点の部分改良といろいろと検討されてきたと思われる。今回後期第 2 次栗原市総合計画基本計画に全線改良工事として盛り込まれた。しかし事業実施にあたっては 1 年たらずで部分改良となった。当初(合併後)から今日までのその経緯と現在の進捗状況を伺う。</p> <p>2 (1) 栗駒大釜地区の揚水機場のポンプの老朽化にともない、組合の更新計画から数年前、市への更新一部助成要望が出されたが、助成に該当しないとの回答があったものの市の工事費として予算計上、ポンプ更新工事がされた。その変更理由と経緯を伺う。</p> <p>(2) 合併後から令和 4 年度まで、利用組合が拠出した電気料、修理費等、それぞれの額はいくらか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 今回、市の財産と認定されたことから今まで組合が拠出をしてきた、電気料、修理費等含めた全額を返還すべきと思うが市長の見解を伺う。また、建物の老朽も進んでいる状況から早急に建替えをするべきと思うがその計画はあるか。</p> <p>3 要望事業実施にあたっては公正、透明性を高め対処することがもっとも重要であると思うが市長の見解を伺う。</p>
16	15番 佐藤文男	<p>1 国保税の引き上げやめよ</p> <p>2 公共交通「タクシー助成」について</p>	<p>1 令和5年6月議会において、今後の国民健康保険税の税率改正の説明がなされた。これまで財政調整基金を取り崩したり、一般会計から2億円の法定外繰り入れを行うなど、被保険者の負担軽減に努力を図ってきたことに対し評価をするものであるが、5年度においては、15.42%の引き上げが行われた。今後も令和7年度まで段階的に引き上げを行い、県の示す標準保険料率まで引き上げることが計画されている。</p> <p>コロナ禍に加え、今、円安、物価高が市民の暮らしを直撃している中、市当局においても様々な緊急対策を行っていることは評価するものであるが、このまま計画通りの国保税の引き上げがなされれば、被保険者の担税力は超えている。</p> <p>以下の点についてどうか。</p> <p>(1) 5年度引き上げ後の徴収状況はどうか。</p> <p>(2) 加入者の反応はどうか。</p> <p>(3) 令和6年度も引き上げの計画だが、一般会計から繰り入れし、引き上げをやめるべきと思うがどうか。</p> <p>(4) 政府「子ども家庭庁」は「異次元の少子化対策」の財源を確保するため、公的医療保険料に上乗せして徴収する新たな支援金の制度案を有識者会議に示した。これは、「少子化対策」の名のもとに保険税に付加するという、新たな増税であり認めるわけにはいかない。反対の意思表示を求める。</p> <p>1 市はこれまでの「乗り合いデマンド交通」から「タクシー助成」に変更し令和6年度から実施するとの説明が9月の議員全員協議会で示された。デマンド交通は地域の実情の違いもあり評価は様々だが、利用者の利便性を考え、より良い「タクシー助成」制度になることを求め、以下の点についてどうか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(1) 10 地区説明会での質疑と対応についてどうか。</p> <p>(2) 花山地区は引き続き居住地区内は「デマンド交通」での対応となるが、料金は 300 円から 400 円に引き上げられる。説明会での反応はどうか。令和 4 年度の実績はどうか。</p> <p>(3) 花山地区での料金を据え置いた場合と、引き上げた場合の差額はいくらになるか。</p>
		3 高齢者の補聴器購入に助成を	<p>1 加齢性難聴は 50 代頃から始まり、75 歳以上になると 7 割が発症すると言われ、難聴になるとコミュニケーション能力が低下し、認知症のリスク要因が最も高くなると言われている。認知機能の低下の影響は、介護・フレイル予防、孤立化防止の観点から現代社会では、重要な課題となっている。</p> <p>予防として難聴者は補聴器を使うことで認知機能を維持することにより、認知症の予防になると言われている。</p> <p>認知症を抑えれば結果的にその分、医療費の抑制にもつながる。また、高齢者の聴力の実態がどうなっているか検査も必要と思う。以下の点について伺う。</p> <p>(1) 昨年の 12 月議会での答弁で、聴力検査は検診団体と実施に向けた協議を行うとの答弁だったが、現在はどうか。</p> <p>(2) 補聴器は高額であることから、購入代金の一部を市独自に助成する制度つくるべきと思うがどうか。</p>
1 7	21 番 尾形勝通	1 今こそ企業誘致に乗り出す時	<p>1 令和 5 年 11 月 14 日、台湾の半導体受託生産大手、力晶積成電子製造 (PSMC) と SBI ホールディングスによる宮城県大衡村への半導体工場新設に向け、両社が出資する準備会社 JSMC と宮城県、大衡村は新工場の立地に関する協定を結んだ。</p> <p>栗原市は仙台、大衡と岩手県金ケ崎、北上の両工業団地の中間点に位置し、交通、輸送の要と自認する。多くの半導体関連企業の集積地に成りうることを確信し、次の細目で市長の見解を伺う。</p> <p>(1) 県の半導体新工場誘致の報道を聴いて、どのような感想を持ったのかをお聴きしたい。</p> <p>(2) 栗原には半導体製造向けの石英ガラス、単結晶、多結晶シリコン製品を中心とした製品を創る「DG テクノロジーズ」が進出してきており、大衡の新工場との関連企業がすでにあると認識して、このような企業グループとのお付き合いを大切にしていけば、さらなる半導体関連企業の誘致に結び付くと思われるが、このことに関して市長の見解はどうか伺う。</p>



発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>(3) 当新工場は主に車載向けの半導体を手がけると聞くが、電気自動車 (EV) が世界的に普及する中、車載関係の半導体を生産するとなると関連産業が栗原には多く、また立地の優位性もあって関連企業の誘致が見込まれると思うが、このことに関して市長の見解を伺う。</p> <p>(4) 栗原の主要工業団地である若柳金成インター工業団地に 2 区画の工業用地が残っているが、近くに栗原東大橋が完成し、みやぎ県北高速と東北自動車道との接続インターの計画が実現した時、高速交通体系の優位性がますます高まるが、今後の企業誘致への方向性について市長の見解を伺う。 更に、企業誘致用工場用地をどのように確保していくのかを伺いたい。</p>
		<p>2 畜産農家の窮状を救う支援策を強化せよ</p>	<p>1 日本の食と農の危機が迫っている。栗原市農業も同様である。ウクライナ侵攻や円安は、世界の食料、生産資材、エネルギーを一気に不安定化し、価格高騰を招き栗原市の農業者を苦しめている。 現在、市民の声として、特に畜産農家の嘆きの声が私の耳に入って来ている。この声は市長にも届いていると確信しているところである。 栗原市農業の振興、とりわけ和牛の郷くりはらづくりに貢献してきた、本市の畜産振興施策については評価するものであるが、本市畜産農家の持続的発展を期待し、次の細目で市長の見解を伺う</p> <p>(1) 現在、繁殖牛農家は子牛価格の下落と、飼料価格の高騰により営農継続の危機に立っている。肥育牛農家も同様の厳しい経営の中にある。 この現況把握のため、肥育牛と繁殖牛について、令和 2 年～4 年までの 3 年間について、年間平均販売価格と出荷頭数、生産者農家数の推移について教示願う。 また、栗原市畜産の持続的発展を期するため、令和 4 年度に実施した栗原市家畜飼料高騰対策支援事業の第 2 弾目を本年度中に実施し畜産農家の窮状に伝えて欲しいと願っているが市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 高齢畜産農家の経営持続や多頭飼育農家の労働負担軽減の為、JA が推進している、ヘルパー作業の受委託を促進するような支援事業を提案するがいかがか伺う。</p> <p>(3) 畜産農家の早期発情発見による繁殖成績の向上や、家畜事故の抑制のため ICT 機器を活用した飼養管理が推奨され機器導入を検討する農家が出てきたと聞くが、農家負担の軽減を図るべく、市の補助金で支援するよう提案するがいかがか伺う。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
18	1番 鹿野芳幸	1 “地域の声”届 いていますか	<p>1 「交流と発展夢あふれる栗原」をスローガンに合併して間もなく 20 年目を迎えようとしている。合併時にあったそれぞれの地域の方々からの要望等に今日までどのように応えてきているのか。少し見えない部分もある。その中のひとつとして、事業の優先順位についての考え方である。これまでも何度か質問してきた経緯がある。特に、道水路改修事業についてあらためて次の点について伺う。</p> <p>(1) 道路、水路の改修優先順位の考え方について</p> <p>① 必要性、緊急性、費用対効果は理解できるが、台風や集中豪雨などの度に住家への床上、床下浸水する隣接の水路改修の優先順位の考え方とこれまでの改修状況の実態を伺う。</p> <p>② 合併前から、こうした課題を抱えている地域が今も多く存在していると思われる。また、常に集中豪雨や台風の度に被害を受けてきた個人住宅も確認してきた。こうした地域の道水路等の改修を早期に取り組むことはできないか。合併してから間もなく 20 年目を迎えようとしている。</p> <p>③ こうした地域から道水路改修要望があった場合、地域や当事者へ優先順位を含め改修等についての説明はどのように行っているのか。また、総合支所、本庁が連携を図りながら対応してきているとこれまでも答弁されてきているが、現地確認調査を含め、しっかり対応してきているのか。</p> <p>④ 生活道路の維持補修については、市民の最優先要望と思っている。当初予算及び年度内予算組み替えや増額を検討されるなどに積極的に取り組み、早期整備に努めるべきと考えるがどうか。</p> <p>地域公共交通機関の利用者は、高齢者が多い現状だ。こうした状況下において毎日の生活に必要な買い物や通院の利便性について、地域によっては乗合デマンド交通では不便な地域もあることは認識しており、一部地域においてはタクシー助成により支援をしている現状である。こうした不便さを解消するため令和 6 年度から 5 年間持続可能で利便性の高い地域公共交通を確保維持するため、計画を策定するものとして、栗原市の地域公共交通計画（案）が示された。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>このことについて、10月24日から11月1日まで市内10地区(10会場)で市民説明会が開催されたようである。次の点について伺う。</p> <p>(2) 地域公共交通の進め方について</p> <p>① 各会場ごとの参加人数と意見や要望等があったのか。</p> <p>② 特に利用者の参加状況と意見や要望等があったのか。</p> <p>③ 計画の中で、乗合デマンド交通からタクシー助成に変更になることへ利用者や参加者からの意見や要望等があったのか。</p> <p>④ 令和6年度以降も地区内のみ利用予定者にとっては200円高くなるだけで、何のメリットもないとの声が聞こえてくる。この事についての見解は。</p> <p>⑤ 令和5年4月1日現在又は、直近の乗合デマンド交通利用地区の実登録者は何人か。地区ごとに示せ。</p> <p>⑥ 今後、どの程度地区外への利用者と推測されるか。</p> <p>⑦ 高齢化が高くなる栗原市だ。高齢者に一層やさしい交通支援、配慮が必要な仕組みづくりが求められるのではないかと考えるがどうか。</p> <p>旧一迫町には、昭和46年9月に文化庁指定史跡になった山王圀遺跡がある。</p> <p>令和5年度栗原市教育基本方針のひとつに地域の特性を生かした文化芸術活動の推進とある。社会教育の具体的な施策の4に文化財の保存、活用と継承活動の推進とあり、その中に①地域の文化財の調査、保存、活用と公開、②史跡等の環境整備の推進、③文化財の理解と保護に対する関心を高めるための広報活動の充実、④伝統文化の継承と後継者育成の支援とある。</p> <p>以下の点について伺う。</p> <p>(3) あやめ園も含めて今後の山王圀史跡公園の管理及び整備について</p> <p>① これまで、埋蔵文化財センター、山王考古館とあわせて山王圀史跡公園の管理について、年間を通してどのような管理体制となっているか。</p> <p>② 史跡内には縄文のひろば、復元竪穴住居、ぬま、縄文のムラ、捨て場の復元、これらの解説板などがあり、来園者には、わかりやすく配慮されている。公園は、だれでも、いつでも気軽に散策でき、埋蔵文化財センター、山王考古館を見ていただきながら、縄文時代の人と自然とのかかわりを味わっていただく貴重な史跡である。どのように啓蒙を図ってきているのか。</p>

発言 順位	質問者 (議席番号及び発言者)	質問事項	質問要旨
			<p>③ 一方、なかでも、山王池の草が伸び放題となっている。適期に刈り取りを行い、史跡にふさわしい公園として管理できないか。</p> <p>④ 昭和 56 年 6 月に第 1 回あやめまつりを実施して今日に至る。山王圀史跡公園あやめ園は、昭和 51 年遺跡保存整備事業の一環として誕生し、老人クラブ、婦人会等民間団体と旧一迫町が一体となり整備に努めてきた。アヤメ、カキツバタ、ハナショウブの三種類の花が見られるほか、「あやめ文化」を踏まえた特色のあるあやめ園として整備されている。毎年、ハナショウブの咲く頃にあやめまつりが行われてきたが、近年、ハナショウブの育ちが悪いようだ。丈は短く、花が小さい。天候の影響なのか、その他に原因があるのか分析しているか。</p> <p>⑤ 平成 8 年 6 月には全国あやめサミットが一迫町を会場に 3 日間行われ、全国から 28 市町村が参加された。この時に、ほ場の一部に参加市町村のハナショウブなどを記念植栽し、来園者に紹介しながら観賞いただいていたが、いつの間にかそのほ場がなくなってしまった。当時あやめサミットに参加された市町村の花の植栽とほ場の復活はできないか。</p> <p>⑥ あやめ園は文化財との関係はあるものの、これまで老人クラブ、婦人会、地域の方々のたくさんのご協力によって維持されてきた。旧一迫町にとってはシンボルとも言える大切な場所であり、観光以前に教育の場として重要な公園であり、文化財である。埋蔵文化財センター、山王考古館含めて山王圀史跡公園全体の今後の管理と活用をどのように考えているか、その方向性を示されたい。</p> <p>合併してから 20 年目を迎えようとしている。 次の点について伺う。</p> <p>(4) 合併時に旧 10 町村より持ち寄った各種事業の進捗状況については、事業の見直しを含めて概ね順調に進められてきていることは評価できる。しかし、毎年のように市民の方々からの身近な要望について不満も聞かれる。本庁、総合支所連携しながら対応しているようだが、地域の声、市民の声が届いていますか。</p> <p>今後一層丁寧な説明を求めたい。考えを伺う。</p>

※ この要旨は、各議員から提出された通告書の要点をまとめたものです。